

地域づくり提案事業 成果指標設定調査

【成果指標の設定】

成果指標設定年度 20 年度

市町村名	秩父市			
提案事業名	遊休農地解消・地域活性化推進事業			
事業期間	20 年度	～	20 年度	
事業の必要性、目的	秩父市荒川の小野原地区は、南側に荒川、北側には山並みがあり、南に向かって緩やかな日当たりの良い斜面の農地が広がる自然に恵まれた地域であるが、年々環境の良さ故に野生動物による農作物被害が増加しており、遊休農地も拡大傾向にあり地域的な農業生産意欲も低下している。そのような事から生産性も高く現在注目されている農作物（行者にんにく）を導入し拡大していくと共に、食害防止のための有害獣防止柵を整備し、安定した収入を得ることにより地域振興を図るものである。			
成果指標	(成果を検証する指標) 行者にんにく作付け面積			
	(成果検証の具体的な方法) 事業実施後の行者にんにく作付け面積を現状と比較し、さらに拡大を図るための資料として分析する。			
	(上記の指標を設定した理由) 本事業の目的は、遊休農地解消、農業生産性の向上、地域振興の推進、地域特産品の研究生産であるため。			
	(成果の目標値)			
	現状値 (20年4月現在)	0㎡	目標値 (21年3月時点)	1000㎡
	(施設建設等の場合)			
年間利用者数(目標)(人)	—	稼働率(目標)(%)	—	
住民への公表方法及び特記事項	ホームページ等により現状等を掲載予定。行者にんにくは、播種から収穫まで3年～5年と長い年月がかかるが、市場に出回っているものは少ないので特産品としての期待は大きい。			

【成果指標と構成事業の関連性】

平成20年度 構成事業

構成事業名	概要・成果指標との関連性	事業費(千円)
① 特産品育成研究事業	ソフト 野生動物による農作物への被害から地域全体を防除柵で覆い、地域住民が安心して特産品（行者にんにく）を育成研究できる環境を整備し、農家の協力のもと生産の拡大及び遊休農地の解消を図る。	2,600
②	ハード ソフト 実行委 間接補	
③	ハード ソフト 実行委 間接補	
④	ハード ソフト 実行委 間接補	
⑤	ハード ソフト 実行委 間接補	
⑥	ハード ソフト 実行委 間接補	
合計		2,600

【成果指標の達成見込み】

目標達成のための具体的な方策	増加傾向にある野生動物からの被害を抑えるために地元住民を中心に協議を重ね、平成19年度には北側の山際に防除柵を設置した。平成20年度に南側の川際に防除柵を設置することにより、行者にんにくの育成研究を確実にしていく。
成果指標の達成見込み	行者にんにく作付け面積を拡大するにあたり、平成19年、20年度の有害動植物防除等体制整備事業を実施し、遊休農地の活用を推進していくことで効果が出ると判断した。数件の農家で始めた行者にんにくの育成を地域全体で研究していくことにより確実に目標を達成できる。